



流通 BMS 協議会 会報

# 流通 BMS ニュース

No.13 2011 年 5 月号

## Index

<b>特別企画 総会特集</b>	<b>... P2</b>
4月26日、フロラシオン青山で流通 BMS 協議会の平成 23 年度通常総会を開催しました。	
<b>シリーズ 業界のキーマンに聞く</b>	<b>... P5</b>
日本チェーンドラッグストア協会、業界標準化推進委員会の江黒委員長に、業界の最新の動向や情報化についてお聞きしました。	
<b>関連情報紹介</b>	<b>... P8</b>
5月19日、明治記念館で開催された製・配・販連携フォーラムで、49社が署名した「流通 BMS 導入推進宣言」が発表されました。	
<b>キーワード解説</b>	<b>... P10</b>
流通サプライチェーンの全体最適化	
<b>最新状況</b>	<b>... P11</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>- 流通 BMS 導入企業名の公開</li><li>- 流通 BMS ロゴマーク使用許諾状況</li><li>- 会員企業一覧</li></ul>	
<b>事務局便り</b>	<b>... P14</b>
協議会事務局への出向を終えて	
<b>編集後記</b>	<b>... P15</b>



# 今年度事業計画など承認

## 2011 年度通常総会を開催

- ・日時：平成23年4月26日（火）16時15分～16時50分
  - ・場所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区南青山4-17-58）
  - ・次第
    1. 開会の辞（（財）流通システム開発センター 会長 井上 毅）
    2. 来賓挨拶（経済産業省 商務流通グループ 流通政策課課長補佐 妹尾 善多氏）
    3. 議事
      - 第1号議案 平成22年度事業報告について
      - 第2号議案 平成23年度事業計画について
      - 第3号議案 役員を選任について
      - 第4号議案 平成23年度運営委員の選任について
    4. 閉会
- （引き続き17時より懇親会を開催）

流通システム標準普及推進協議会（流通 BMS 協議会）の2011 年度通常総会を4月26日、東京・港区のホテルフロラシオン青山で開催した。

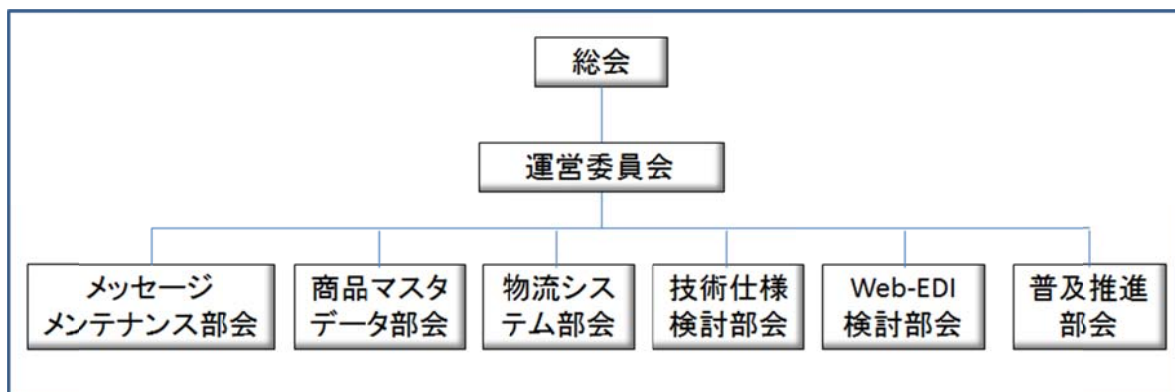
流開センター・井上会長の開会の辞、経済産業省・妹尾課長補佐の来賓祝辞の後、浅野会長が議長となり、議事を進行、議事1（22年度事業報告）、議事2（23年度事業計画）を承認したほか、議事3（役員選任）では2年の任期満了を迎えた浅野会長（国立情報学研究所教授）、井上副会長（日本チェーンストア協会専務理事）、奥山副会長（（社）日本加工食品卸協会専務理事）を再任、議事4（運営委員の選任）では22年度に引き続いて下記の14団体の代表からなる運営委員を承認した。

### 23 年度運営委員団体

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| （財）食品流通構造改善促進機構       | （社）日本加工食品卸協会        |
| 全国菓子卸商業組合連合会          | 日本化粧品工業連合会          |
| 全国化粧品日用品卸連合会          | 日本スーパーマーケット協会       |
| 全日本菓子協会               | 日本チェーンストア協会         |
| （社）日本アパレル産業協会         | 日本チェーンドラッグストア協会     |
| （社）日本医薬品卸業連合会・大衆薬卸協議会 | （社）日本ドウ・イット・ユアセルフ協会 |
| 日本OTC医薬品協会            | 日本百貨店協会             |

なお、今年度の運営は昨年度と同様、維持管理関係の5部会に普及推進部会を加えた6部会体制で行う。

### 23年度運営体制



総会終了後の懇親会では、浅野会長の挨拶と乾杯音頭に続いて、協議会発足後の2年間運営委員長を務められた稲垣登志男氏（菱食）の退任の挨拶、奥山副会長の中締めを挟んで予定通り18時半に終了した。



総会会場風景

## 今年度の活動計画

### ●基本方針

流通業界においては、デフレ状況下で厳しい企業間競争が続いており、一層の業務効率化とコスト削減が求められている。この動きは、従来から行われてきた企業間の取引業務改革だけでなく、製配販の協働によるサプライチェーン全体の無駄の排除と新たな価値の創造に向けた活動に発展してきている。

当協議会としてもこのような流通業界の動向に対応して、流通 BMS の機能の充実とより一層の普及推進を実現することにより、流通サプライチェーンの情報連携のための共通インフラ作りという本来の役割を果たしていく必要がある。

以上のような認識を踏まえ、平成 23 年度においても正会員、支援会員と連携しながら、また 5 月に設立が予定されている「製・配・販連携協議会」との役割分担を明確にしながら、標準の適切な維持管理と機能の拡充、標準の導入推進に関わる活動に積極的に取り組むものとする。

### ●維持管理活動

2010 年度と同様、「メッセージメンテナンス部会」「商品マスタデータ部会」「物流システム部会」「技術仕様検討部会」「Web-EDI 検討部会」を設置し、それぞれの内容に応じた維持管理活動を行う。

このうち、商品マスタデータ部会では、2010 年度のアパレルに続いて日用品・化粧品・一般医薬品向けのガイドラインを、Web-EDI 検討部会では 2010 年度に策定した基本方針に沿った「流通 BMS における Web-EDI ガイドライン」を作成し、公開する。

### ●普及推進活動

「普及推進部会」を中心に検討し、以下の活動を行う。

#### ・導入状況の把握と開示

引き続き流通 BMS 導入企業名を定期的に公開するほか、正会員の協力を得て小売、卸、メーカーに対してアンケート調査を行い、より詳細な導入状況と課題を把握する。

#### ・講座やセミナーの開催

流通 BMS 講座（導入編、システム設計編）を定期開催する。また、11 月 16 日に東京・有明で流通 BMS フォーラムを開催する。普及セミナーについては、正会員、支援会員と連携しながら、流通 BMS の導入推進を具体的にサポートできるような内容を中心に実施する。

#### ・製品やサービスの紹介

検索システムを通じてロゴマーク許諾済製品・サービスの推奨を行うとともに、11 月 16 日のフォーラム開催時にそれらの展示会を併催する。

#### ・広報普及媒体の作成と配付

流通 BMS の普及に資する DVD を作成し、会員に配付するとともに各種広報活動で利用する。



第1回 チェーンドラッグストア業界

## 今年は普及推進部会にも参加して 協議会との連携を深めます

日本チェーンドラッグストア協会 業界標準化推進委員会委員長  
㈱クスリのマルエ 代表取締役

江 黒 純 一 氏  
えぐろ じゅんいち

ー 日本チェーンドラッグストア協会の最近の話題や業界の動向を教えてください。

江黒 震災対応、セルフメディケーション、薬事法改正の3つを挙げることができますが、現在は震災対応が一番大きな活動になっています。

義援金の受付や物資の提供、薬剤師の派遣を中心に行っています。5月中旬までに1億円をはるかに超える義援金が集まっています。物資の提供については、水産庁と厚生労働省の連携による、厚生労働省の支援計画（イニシアティブ）に基づいて、職能団体（日本薬剤師会他）、商品メーカー（日本OTC医薬品協会）とともに、小売業団体として当協会も役割を



発揮し、トータルで効果的な支援活動を行いました。また、日本薬剤師会と連携し、被災地の住民や避難所におられる方々に、医薬品の提供や健康相談を行っています。震災の対応については、日本チェーンドラッグストア協会のホームページの東日本大震災（救済・支援活動の報告）に詳しく掲載しています。

最近セルフメディケーションに力を入れています。業界自体、ずっと右肩上がりに成長してきましたが、今はゆるやかなカーブになっています。国民年金の問題や医療費の増加などにより、自分の健康は自分で守ることがこれからますます重要だと考えています。物販は成熟していますが、医療費の抑制という観点からも、今後は調剤や健康相談に注力していきます。

また、薬事法の改正も最近の大きな変化です。改正から2年近く経とうとしていますが、薬剤師でなく、登録販売者で対応できるようになったことは、業界では歓迎されています。6年制になったことで、薬剤師のレベルが上がることは期待できますが、それでも数は圧倒的に足りません。学校の定員は1.5倍ほどになっていますが、国家試験の難しさもあり、単純に薬剤師が今までの1.5倍のペースで増えるとは考え難いからです。今まで、学校のカリキュラムは薬の知識をつけることが中心になっていましたが、ドラッグストアでも、薬局や調剤同様にお客様にカウンセリング

を行うことが求められています。この部分が今まで弱かったと感じています。そこで、協会としてもお客様とのコミュニケーションの重要性を訴え、教育内容について提案を行っています。

現在、流通業では M&A が盛んに行われていますが、当協会の会員の間でも大手を中心に M&A が増えています。しかし、健康相談などのセルフメディケーションには地域に密着したサービスが欠かせません。地元詳しい、また地元で認知されている企業が各県に 1~2 社でもあれば、大手グループの傘下では難しいきめ細やかなサービスを提供し、お客様との信頼関係を築き、成長し続けることができるでしょう。そのような面ではスーパー業界と似ているのかもしれませんが。実際、地元同士ということもあり、スーパーから一緒に出店しませんかという誘いもあります。小規模のショッピングセンターなどで地元なりの強みを発揮できればと思います。

#### 一 業界の情報化の課題は何でしょうか？

江黒 商品情報の伝達については、業界で共通に使うデータベースをプラネットさんがバックアップしてくれています。現在は自社開発のシステムを利用している小売企業が多く、卸・メーカーの負担が大きいため商品情報の効率的な伝達は課題の一つです。

取引データの EDI については、経済産業省の支援で 2006 年度から 3 年間、標準化に取り組みました。したがって、標準化はできていますが、あまり導入は進んでいません。先日行われた JAPAN ドラッグストアショーでは、流通 BMS の導入企業であるユタカファーマシーさんが標準 EDI 導入のメリットを紹介する予定でしたが、講演が始まった直後に東日本大震災が起こり、中止となってしまいました。

会員企業には、チェーンドラッグストア業界の導入ガイドラインを作成して配布したり、企業間取引に必要な伝票や請求書・支払明細書が不要になり、その用紙費用、保管費、データ入力する人件費などが不要になることにより、伝票 1 枚あたり 10 円削減できるなど、具体的な効果を伝えたりして、導入を促しています。当協会の会員企業に流通 BMS が普及していくには、時間はかかるでしょうが、製・配・販連携協議会の発足や日本を代表する企業による流通 BMS 導入宣言・導入計画公開など、全体最適化のムードが高まっていることは、会員企業に伝えていきたいと思っています。

#### 一 業界標準化推進委員会の今年度の活動計画を教えてください。

江黒 当協会には 12 の委員会があります。業界標準化推進委員会では、EDI 推進ガイドラインをもとに、実運用化の普及を図る、カテゴリーマネジメント分析シートの普及を図る、普及に向けた問題点の洗い出しと解決への方向性を探る、の 3 つについて活動しています。参加企業は 8 社で、約 2 ヶ月に 1 回委員会を開催しています。

システム部門の方は、JCA 手順の限界やモデムのサポート終了など、不都合が生じることを承知しています。しかし流通 BMS に対するオーナーの関心が低い、また、もともと情報化に対する意識があまり高くなく、情報システム部にお任せ、といった事情があります。加えてこのところの景気後退や震災の影響により、店頭が一番重要。また、投資をできるだけ抑えたいという傾向が

あります。当委員会が一番重要な活動は、流通 BMS の普及啓発だと考えます。流通 BMS 協議会の力も借りながら、推進していきたいと思えます。

そのためにも流通 BMS 協議会には当協会の会合などで事例を紹介していただくと助かります。会員企業を対象に、東京、名古屋、大阪、福岡など各都市で様々な会合やセミナーを開催していますので、その際、流通 BMS の説明だけでなく、具体的にどの企業が、どのように動いているか、といった情報を提供していただくと導入が加速するでしょう。当協会の会報にも継続して流通 BMS の話題を掲載していきます。

昨年度は、流通 BMS 協議会の商品マスタデータ部会とメッセージメンテナンス部会に参加しましたが、今年度は普及推進部会への委員派遣も必要だと考えています。

ドラッグストア各企業におかれては、早期に標準 EDI を導入し、業務の合理化、コストダウンの実現、さらには、ドラッグストア業界の社会的役割がより一層拡大することができるように、標準 EDI の普及、推進を進めていきますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

(聞き手：坂本尚登、まとめ：島崎綾子)



# 製・配・販連携フォーラムを開催 流通BMS導入推進宣言に49社賛同

- ・日時：平成23年5月19日 16:30~18:45 懇親パーティ ~19:45
- ・場所：明治記念館2階「蓬莱」&「曙」
- ・次第：
  - 開会・主催者挨拶
  - 来賓挨拶
  - 各ワーキンググループからの成果報告
    - ① 配送最適化ワーキンググループ報告
    - ② 返品削減ワーキンググループ報告
    - ③ 流通BMS導入推進ワーキンググループ報告
  - 経営トップによるパネルディスカッション
  - 製・配・販連携協議会 設立式
  - 閉会・会場移動
  - 懇親パーティ

(財)流通システム開発センターと(財)流通経済研究所が共同主催する製・配・販連携協議会は、製・配・販連携フォーラムを5月19日、東京・港区の明治記念館で開催した。

製・配・販連携協議会は、消費財分野におけるメーカー(製)、中間流通・卸(配)、小売(販)の連携により、サプライチェーン・マネジメントの抜本的なイノベーション・カイゼンを図り、もって産業競争力を高め、豊かな国民生活への貢献を目指している。

2010年5月から、発起人15社が参加して、準備的な会合を継続し実施。経済産業省の積極的なサポートを得つつ、「ビジョン」の採択や本格的な協議会活動の運営方法などに関する議論を開始。また、3つのテーマ(配送最適化、返品削減、流通BMS導入促進)に関するワーキンググループを設置し、議論を重ねてきた。

本フォーラムにより、これまでの議論の結果を報告すると共に、正式な協議会の発足を宣言した。





流通BMS導入推進ワーキンググループの発表では、発起人15社及び賛同企業一同（5月19日現在：49社）が、情報連携強化によるサプライチェーン全体の最適化を推進し、ひいては生活者の豊かな国民生活に貢献するため、流通BMS導入推進宣言書を公開した。

## 流通BMS 導入宣言書

**私たちは、製・配・販の効率的な情報連携による**

**サプライチェーン全体の最適化実現のため、**

**流通BMS の導入※1を推進します**

**上記を実現するため、**

**(1) 私たちは、現在、普及段階にあるサプライヤー（メーカー・卸）と小売間の取引※2について、各社で流通BMS 導入・拡大 計画※3を策定し、製・配・販連携協議会を通じて公表します**

**(2) 私たちは、積極的な情報公開を行い、流通BMS の普及啓発に努めます**

（※1、※2、※3の注釈は省略）

導入・拡大計画は平成23年9月末を目途に、製・配・販連携協議会を通じて、公表する予定である。ここでは、流通BMS協議会の流通BMS導入企業一覧と連動することも考慮している。また、製・配・販連携協議会についての、成果物など様々な情報についても、現在、公開方針を検討中であり、順次、公開予定である。

＜賛同企業一覧：5月19日現在＞ (株)アークス、アサヒビール(株)、味の素(株)、(株)あらた、イオン九州(株)、イオン北海道(株)、イオンリテール(株)、イオン琉球(株)、(株)イズミ、イズミヤ(株)、伊藤忠食品(株)、(株)イトーヨーカ堂、花王(株)、加藤産業(株)、(株)カネボウ化粧品、キューピー(株)、キリンビール(株)、(株)光洋、国分(株)、(株)コメリ、(株)サークルKサンクス、サントリー食品インターナショナル(株)、(株)資生堂、資生堂販売(株)、ジャベル(株)、(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)ダイエー、日清食品(株)、(株)日本アクセス、(株)Paltaac、(株)フジ、フクター・アド・ギャブル・ジャパン(株)、(株)平和堂、マックスバリュ九州(株)、マックスバリュ東北(株)、マックスバリュ西日本(株)、マックスバリュ北海道(株)、(株)マツトキヨシ・ルディンクス、(株)マルエツ、三井食品(株)、ミニストップ(株)、(株)ヤオコー、ユニー(株)、エリバ・ジャパン・ホールディングス(株)、(株)ヨークマート、ライオン(株)、(株)ライフコーポレーション、(株)菱食、(株)ローソン



## 流通サプライチェーンの全体最適化

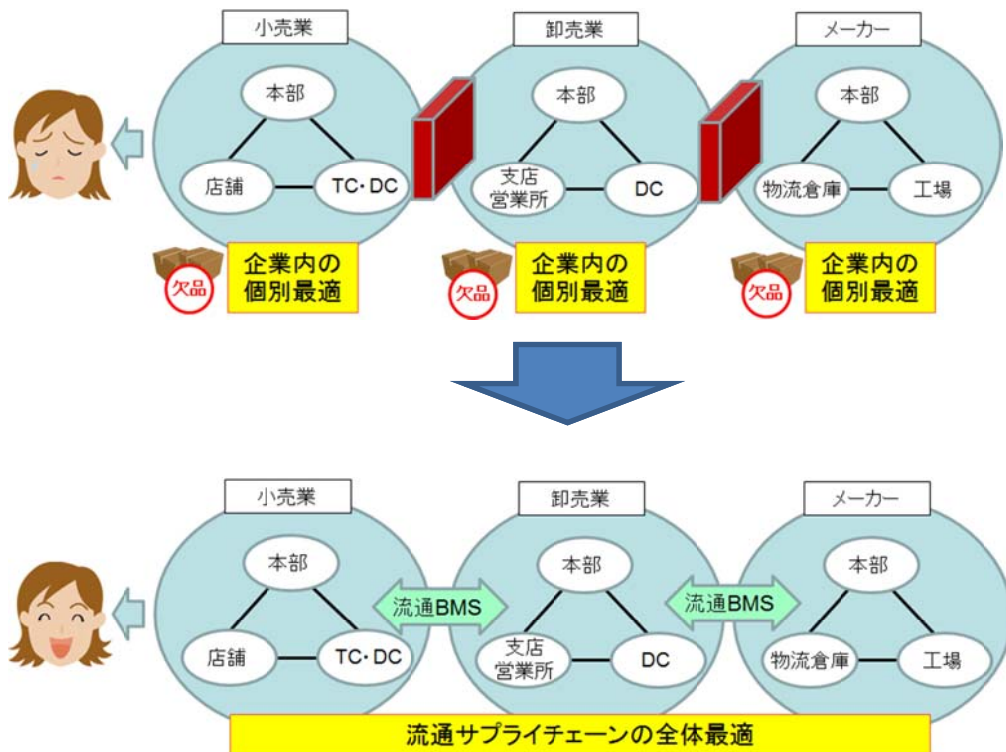
5月19日に正式発足した「製・配・販連携協議会」の動きを見ても、「製配販連携」が流通業界の業務改革のキーワードとなっていることが分かります。流通三層とも呼ばれる製（メーカー）、配（卸）、販（小売）が連携して目指すのは、共通のターゲットである消費者に対して新鮮で安全な商品を届けたり、新たな需要を喚起したりする活動を、業界全体の取組みとして行うことで、より大きな効果を実現することです。

このような取組みは「流通サプライチェーンの全体最適化」とも呼ばれます。1990年代の後半から聞かれるようになったサプライチェーン・マネジメントの流通業界版と言えます。流通BMSの制定につながった経済産業省事業は2003年度に始まりましたが、その事業名は「流通サプライチェーンの全体最適化促進事業」でした（2006年度から「流通システム標準化事業」として継続）。当時はカルフルーやウォルマートといった国際流通業が日本に進出したことが刺激となって、国際競争に負けない効率化を実現しよう、というのが主な目標でした。

これに対して今日の製配販連携は、長引くデフレと縮小する国内消費市場で勝ち残るためには、自社だけの努力（部分最適）には限界があり、サプライチェーン全体の取組み（全体最適）が必要であることが以前よりも強く意識されてきたことが背景にあると思われます。

全体最適のベースとなる企業間の情報連携・情報共有の共通インフラとなるのが流通BMSです。製・配・販連携協議会による流通BMS導入推進宣言は、そのことを改めて認識させたということが言えるでしょう。

### 製・販・配のスムーズな情報連携による流通サプライチェーンの全体最適化



### 流通 BMS 導入企業名の公開

流通 BMS 協議会では正会員、支援会員の協力を得るなどして、流通 BMS 導入済/予定企業を独自に把握し、それぞれの企業に社名開示の承認を得て公開しています。2011 年 5 月 2 日現在の状況は下記のとおりです。

業態	導入済	導入予定	小計
1. スーパー	55	14	69
2. 百貨店	3	6	9
3. ドラッグストア	1	3	4
4. ホームセンター	2	1	3
5. 生協事業連合	3		3
合計	<b>64</b>	<b>24</b>	<b>88</b>

業種	導入済	導入予定	小計
1. 食品・飲料卸	47		47
2. 菓子卸	12	5	17
3. 日用品化粧品卸	9	5	14
4. 医薬品卸	4	2	6
5. アパレル・靴 卸・メーカー	8	1	9
6. 食品メーカー	15	2	17
7. 家庭用品 卸・メーカー	3	2	5
8. 包装資材 卸・メーカー	4	5	9
合計	<b>102</b>	<b>22</b>	<b>124</b>

具体的な企業名は下記サイトをご覧ください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html>

### 流通 BMS ロゴマーク使用許諾状況

流通 BMS 協議会では流通 BMS の標準仕様に準拠した製品やサービスに対して、流通 BMS のロゴマークの使用を許諾しております。2011 年 5 月 24 日現在の状況は下記のとおりです。

◇許諾総数：69 製品・サービス（提供企業数 39 社）

（69 製品・サービスの内訳）

- EDI（通信+XML）製品：37
- サービス（ASP/SaaS）：22
- 通信基盤：4
- 認証サービス：3
- 物流ラベル作成ソフト：3

◇検索サービスの提供

上記の製品・サービスの詳細は下記サイトから検索することができます。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html>

## 会員企業一覧

### 正会員

(2011年5月23日現在。48団体)

オール日本スーパーマーケット協会

(財)家電製品協会

酒類加工食品企業間情報

システム研究会(F研)

情報志向型卸売業研究会

食肉流通標準化システム協議会

((財)日本食肉流通センター)

(財)食品産業センター

(財)食品流通構造改善促進機構

(社)新日本スーパーマーケット協会

(財)生活用品振興センター

全国医薬品小売商業組合連合会

全国卸売酒販組合中央会

全国菓子卸商業組合連合会

全国化粧品日用品卸連合会

全国青果卸売協同組合連合会

(社)全国中央市場水産卸協会

(社)全国中央市場青果卸売協会

(社)全日本医薬品登録販売者協会

全日本菓子協会

全日本履物団体協議会

全日本婦人子供服工業組合連合会

(社)全日本文具協会

(社)大日本水産会

一般社団法人日本アパレル産業協会

(社)日本医薬品卸業連合会

大衆薬卸協議会

(社)日本衛生材料工業連合会

日本 OTC 医薬品協会

(社)日本加工食品卸協会

(社)日本玩具協会

日本化粧品工業連合会

日本 GCI 推進協議会

一般社団法人日本出版インフラセンター

日本スーパーマーケット協会

(社)日本スポーツ用品工業協会

日本生活協同組合連合会

日本石鹼洗剤工業会

(社)日本専門店協会

日本チェーンストア協会

日本チェーンドラッグストア協会

(社)日本トウ・アウト・ユアセルフ協会

日本歯磨工業会

日本ハム・ソーセージ工業協同組合

日本百貨店協会

(社)日本フードサービス協会

日本文紙事務器卸団体連合会

(社)日本ボランティア・チェーン協会

一般社団法人日本レコード協会

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

協同組合 ハウネット

### 支援会員

(2011年5月23日現在。156社)

(株)アール

(株)アイシーエス

(株)アイティフォー

(株)ITビジョナリー

(株)アイネット

(株)アグリコミュニケーションズ

(株)あじよ

(株)アスコット

(株)アットマーク

(株)アルケミックス

イーサポートリンク(株)

(株)イーネット

eBASE(株)

イー・マネージ・コンサルティング協同組合

(株)インタ

伊藤忠テクノソリューションズ(株)

(株)インターコム

(株)インタージ

(株)インテック

(株)インフォーマ

(株)インフォメーションプロセッシングリサーチ

ウインキュラム ジャパン(株)

ウェブスペース(株)

ウルシステムズ(株)

(株)エイ・アイ・エス

(株)HBA

エス・イー・エス(株)

(株)エス・エフ・アイ

(株)SJC

(株)S-Parts

エス・ピー・システムズ(株)

エヌアイシー・インフォトレッド(株)

(株)NEC 情報システムズ

NEC ネットソリューションズ(株)

NEC パーソナルプロダクツ(株)

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)

エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)

(株)NTT データ NCB

(株)NTT データ スミス

大阪市中央卸売市場

大阪商工会議所

(株)岡山情報処理センター

沖縄流通 VAN(株)

オフィスフナヤマ

オリンパスシステムズ(株)

カストプラス(株)

キャノン IT ソリューションズ(株)

(株)クライム

(株)ケイコム

けいしんシステムリサーチ(株)

K・ビジネスサポート(株)

(株)コスモコンピュータシステムズ

小林クワイエト(株)	(株)寺岡精工	(株)富士通総研
(株)コムアソート	東芝情報機器(株)	(株)富士通中部システムズ
(株)サイバーリンクス	東芝テック(株)	(株)富士通マーケティング
(株)さくらケーシーエス	トッパン・フォームズ(株)	フューチャーアーキテクト(株)
(株)サトー	(株)トライ	(株)プラス
(株)サンレックス	(株)トレンス	(株)プラネット
(株)CSK	西日本オフィスメーション(株)	(株)フリーポート
(株)シイエスエイ	日経メディアマーケティング(株)	(株)ヘリオス
GMO グローバルサイン(株)	(株)ニッセイコム	北陸コンピュータ・サービス(株)
(株)ジェイ・エス・エス	日本アイ・ピー・エム(株)	ホンダロジコム(株)
(株)JSOL	日本アドバンストリーダースソフトウェア(株)	ミツイワ(株)
JB アドバンスト・テクノロジー(株)	日本経済新聞社	三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)
(株)システム・トラスト	日本事務器(株)	三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
(株)システムベース	日本情報通信(株)	(株)南日本情報処理センター
(株)シスラボ	日本電気(株)	(株)Minorityソリューションズ
シャープシステムプロダクト(株)	日本ヒューレット・パッカード(株)	(株)ミンクス
(株)ジャパンインフォレックス	日本ペリサイン(株)	メルシーネット(株)
SOOP(株)	日本ユニシス(株)	ユーザックシステム(株)
(株)スコープ	日本ラット(株)	(株)U-Think
住商情報システム(株)	(株)ニュートラル	(株)ユニックス
住友セメントシステム開発(株)	(株)ネクステージコンサルティング	ユニバーサルフード(株)
セイコープレジジョン(株)	(株)野村総合研究所	(株)ライトウェーブコンサルティング
(株)セゾン情報システムズ	パナソニック システムネットワークス(株)	ライトシステムコンサルタント(株)
創玄塾	パワー・ワークス(株)	(株)ラック
大興電子通信(株)	(株)日立情報システムズ	(株)リテイルサイエンス
(株)大洋システムテクノロジー	(株)日立製作所	(株)リンネット
(株)外ラー	日立ビジネスソリューション(株)	ロジ共働促進(株)
TIS(株)	(株)ビット・エイ	(株)ワイ・ティ・シー
(株)DTS	(株)ひむか流通ネットワーク	※新規支援会員:2社((株)シイエスエイ、
(株)TKC	(株)ファイネット	デジタルトランスコミュニケーションズ(株))
(株)データ・アプリケーション	(株)フィンチジャパン	
テクトラシステム	(株)福岡 CSK	
(株)テクノフレーション	福岡流通 VAN(株)	
(株)デジタルコンセプト	富士ゼロックス(株)	
(株)デジタルデザイン	富士ソフト(株)	
デジタルトランスコミュニケーションズ(株)	富士通(株)	
鉄道情報システム(株)	富士通エフ・アイ・ピー(株)	
(株)寺岡システム	(株)富士通システムソリューションズ	

## 協議会事務局への出向を終えて

2009年4月の流通BMS協議会発足から2年間、協議会事務局に出向された山岸孝雄さん、梅本康生さんが4月に出向元に復帰されましたので、その声をお届けします。

出向期間中、大変お世話になりました。正会員、ユーザ企業の代表の方々との人脈を拡大でき、大変有効な出向でした。出向期間中に行った部会、会報、講座についてご報告致します。

商品マスタデータ部会、普及推進部会のサブリーダを務め、会員の方々と、直接、情報交換を行う大変貴重な場を頂きました。

会報の編集責任者として、会報No.1 から会報No.12 まで発行しました。正会員の代表の方々に直接インタビューし、執筆し、編集しました。コーヒブレイクで、毎回、用語のわかり易い説明に努めていました。

講座の責任者として、『流通EDI入門講座、流通BMS講座（導入編）、流通BMS講座（システム設計編）』の3講座を新設しました。開催23回、受講者数1,072名でした。特に、流通EDI入門講座は、『流通業界の特徴・システム標準の歴史・流通BMS策定の背景』の3部構成で、自らテキストを作成し、自ら講師を12回務めました。私の流通業界の経験をお伝えしたいとの思いで、講師を務めました。567名の受講者アンケートから、私の思いを若干お伝えできたと感じております。受講ありがとうございました。

現在、富士通グループの流通BMSの取りまとめ、普及推進を行っています。流通BMSは、業務システムとの連携が必須であり、そこに導入効果があります。流通BMSの導入検討段階からのよろず相談を、下記まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

(富士通(株) 民需ビジネス推進本部 山岸孝雄 yamagishi.takao@jp.fujitsu.com)



4月1日付けで出向元のNECに復帰しました。流通BMS協議会事務局在籍中は正会員、支援会員の皆様には大変お世話になり、まことにありがとうございました。出向当初は流通BMS協議会の設立時期で、部会運営その他多くの事柄について事務局も走りながら対応していた時期でした。そのなかで、(財)流通システム開発センターとして約30年振りの機器展示会となった「流通BMSソリューションEXPO」の開催や、流通BMSロゴマークの登録ならびに使用許諾制度など、制度や体制を設計し立ち上げ新たな取り組みを実行ができたこと、また、Web-EDI部会事務局として「流通BMSにおけるWeb-EDI基本方針」の策定と公開のお手伝いをさせていただいたことなど、皆様のご協力をいただきながらも少しはお役に立てたのではないかと、思っております。NEC復帰後も引き続き流通BMSの普及に携わっております。

4月以降は支援会員の立場となりお客様も未導入の企業様を中心となりましたが、流通BMS協議会時代に培った知見や人脈を生かして普及に努めて参ります。正会員、支援会員の皆様方とはまたどこかでお目にかかったり、共にお仕事をして頂く機会があると思います。引き続きご支援、ご協力のほどお願いいたします。また、流通BMSに関するご相談、お問い合わせなどございましたら、どんな些細なことでも結構ですのでお気軽にお声掛け頂ければ幸いです。

(日本電気(株) 流通・サービス・交通営業本部 梅本康生 y-umemoto@ax.jp.nec.com)



## 編集後記

☆流通 BMS 協議会の活動も3年度目に入りました。発足後2年間、12号分の編集を担当された山岸さんが富士通に帰任されましたので、これを機に会報のデザインを刷新しました。ただし、現在は見直しの途中です（本号は仮のデザインです）。次の7月末発行号から正式な新デザインに移行する予定です。

☆協議会草創期の2年間、運営委員長を務められた菱食の稲垣さんが4月いっぱいまで退社されました。運営委員会には流通 BMS の推進に主導的な役割を果たしている製配販の14業界団体の代表の方が参加されていますが、必ずしも利害が一致しないそれらの業界の意見をとりまとめ、標準化をリードしていただきました。

特に2年目の昨年度は普及推進部会長も兼務されたほか、8、9頁で紹介した製・配・販連携協議会の流通 BMS 導入推進 WG のリーダ代表として「導入宣言書」のとりまとめに奮闘されました。2年間本当にお疲れ様でした。

☆流通 BMS の導入企業名を公開していますが、5月2日現在で212社になり、ひと月前に比べて10社余り増えました。6月初の更新ではさらに10社ほど増える見込みです。

最近いろいろなところで話を聞くと、導入の潜在需要が着実に高まっているという印象を受けています。ひとつは東日本大震災の影響もあって、小売業が基幹システムの運用を自社から外部委託に切り替える傾向が見られ、その機会に EDI も流通 BMS 対応に、という話が増えているそうです。もうひとつは製配販連携の動きに刺激され、自社仕様の EDI を流通 BMS に切り替える検討を開始した小売業が増えている、ということです。このような潜在需要が顕在化すると思われる秋頃から、公開企業が一気に増えるものと予想しています。

☆当協議会が事務局を置いている（財）流通システム開発センターのホームページのデザインを5月30日に一新しました。今回の改訂は約2年ぶり、外部からの検索が多い情報を分かりやすく表示するなどの「ユーザビリティ」に重点を置きました。

トップページでは流開センターの主要業務をダイナミックな動き（アドビ社のフラッシュプレーヤーのインストールが必要）で見せていますが、流通 BMS もそのひとつです。以前よりも流通 BMS の検索が増えることを期待しています。

流開センターのホームページはこちらから→<http://www.dsri.jp/index.htm> (尚)

発行 : 2011年5月31日 発行

発行人 : 流通システム標準普及推進協議会（流通 BMS 協議会）

住所 : 〒107-0052

東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ 3 階 （財）流通システム開発センター内

Tel : 03-5414-8505 Fax : 03-5414-8513

E-mail : ryutsu-bms@dsri.jp

URL : <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>